

[View this email in your browser](#)



Eurofins – PFAS Update

産業廃棄物の化学物質情報伝達ルール改正

＊本メールマガジン“PFAS Update”はEurofinsと過去にお取引いただいたお客様及び、グループ担当者と名刺交換いただいた皆様に向けて発信しております。

Eurofinsグループはグローバルのネットワークを通じ、昨今各国で加速を見せるPFAS関連規制をモニターしております。
また、各種規格試験への対応、並びに分析方法の自社開発も世界中で行っております。
このPFAS Updateで最新情報をお届けすると共に、分析を通じて、お客様は勿論のこと、消費者の皆様の“安心・安全”をサポートさせていただきます。

92回目の配信となる今回は「産業廃棄物の化学物質情報伝達ルール改正」と「2026年春、EU PFAS包括規制(U-PFAS)がいよいよ重要局面へ」について紹介させていただきます。

産業廃棄物の化学物質情報伝達ルール改正

環境省により、産業廃棄物の処理委託時における化学物質情報の伝達ルールが改正され、2026年1月から運用が開始されています。本改正は、排出事業者から処理業者への情報提供義務の明確化および強化を目的とするものです。
今回の見直しでは、第一種指定化学物質を含む場合の情報伝達要件や、委託契約書における記載事項が明確化されました。

具体的には、以下の情報の伝達が求められます。

- 含有または付着の有無
- 対象化学物質の名称
- 数量または割合

【制度見直しの背景】

本制度改正は、

- 廃棄物処理時の事故防止
- 適正処理の確保
- 環境汚染リスクの低減

といった観点から実施されています。

環境省のガイドラインでは、情報不足や情報の不一致が事故やトラブルの要因となり得る点が指摘されています。

【PFASとの関連】

PFOSおよびPFOAはPRTR制度における第一種指定化学物質に該当しており、これらを含む可能性のある廃棄物を処理委託する場合には、

- 化学物質情報の整理
- 契約書管理
- WDS（Waste Data Sheet）の活用

が重要となります。

【実務上の留意点】

制度対応にあたっては、契約書様式の確認に加え、社内で管理している化学物質情報との整合や、WDSの活用体制の見直しも有効と考えられます。
制度対応は単なる書類整備にとどまらず、リスク管理および事故予防の一環として整理が求められます。

参考資料：

[廃棄物情報の提供に関するガイドライン（第3版）](#)
[有害廃棄物の適正処理に係る情報伝達について](#)

お問い合わせ

環境PFASサービスページ

このような規制動向を踏まえ、当社ではPFASに関する資料を随時配信しております。
全て無料ダウンロード可能ですので、以下リンクよりぜひご覧下さい。

＜配信中コンテンツ＞

- ・米国防総省の最新報告にみるPFASの戦略的用途と規制動向
- ・EUのPFAS規制シリーズ（全3部作）
- ・米国のPFAS戦略 連邦政府が発表した5年間のPFAS戦略の全容
- ・PFAS分析時の水質サンプリング方法 など

PFAS資料集

2026年春、EU PFAS包括規制(U-PFAS)がいよいよ重要局面へ

欧州PFAS規制の“最重要イベント”であるSEAC（社会経済分析委員会）意見案に対するパブリックコンサルテーションが、2026年春（3月開始見込み）に開始される予定です。
PFASを扱うすべての企業に影響する動きであり、昨年ご紹介した第79・82号メルマガに続き、最新情報をお伝えします。

▼ SEACパブリックコンサルで求められる情報例（ECHA公式ガイドより）

- 用途の詳細
- 代替材料の可否
- 代替時のコスト・品質・安全性への影響
- 製品供給・サプライチェーンへの影響
- 社会・産業への波及効果

これらは、規制案の最終判断に影響を持つため、産業界にとって極めて重要なポイントです。

◆ EUへ製品提供・輸出している企業様にお勧めの“2つのアクション”

（※ 2026年春に開始されるSEACパブリックコンサルテーションへの効果的な対応のための準備行動です）

① 自社のPFAS使用状況を棚卸しする

- ・「どの製品・工程で、どのPFASを、どの量使っているか」を可視化
- ・意図的添加だけでなく、**不純物や副生成物による混入**も確認が必要
※PFASは“**極めて低濃度でも規制対象になり得る**”点に注意

② 科学的根拠となるPFAS分析データを確保する

- PFAS濃度の定量データ
- 製品別・材料別のPFAS検査結果
- 工程水や排水におけるPFAS排出量の把握

パブリックコンサルで提出する説得力ある情報として、**分析データは最も強い根拠になります**。

◆ ユーロフィンでは、以下のISO/IEC 17025 認定分析サービスを通じて企業の規制対応を支援しています：

- 約50種PFAS個別試験
- PFAS類/総有機フッ素スクリーニング試験
- 総フッ素スクリーニング試験

ご質問や分析のご依頼は、どうぞお気軽に弊社までお問い合わせください。

参考資料：

- https://echa.europa.eu/documents/10162/17091/upfas-seac-do_consultation_guidance-for-respondents_en.pdf/68d5b13b-d7d6-f14b-2c3e-9b3c07c98113?i=1765956675386
- https://echa.europa.eu/documents/10162/17091/pfas_use-mapping_annex_to_guidance_for-respondents_en.pdf/e242dcf0-0aab-2619-234e-09445bb181c5?i=1765893415372

製品PFASサービスページ

お問い合わせはこちら

【バックナンバーダウンロード】

メルマガ「Eurofins – PFAS Update」をお読みいただいている皆様に、バックナンバーをダウンロードいただけるページをご紹介します。

ボタンをクリックしてご確認ください。

ダウンロードはこちら

今後メールマガジンを希望されない方は[こちら](#)から配信停止して頂きますようお願い申し上げます。

今後も最新情報をご提供して参ります。
変わらぬご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ユーロフィン日本環境株式会社 横浜PFAS事業部
ユーロフィン・プロダクト・テストイング株式会社 プロダクトテストイング事業部
〒236-0003 横浜市金沢区幸浦2-1-13

本メールに関するお問い合わせは[こちら](#)